

長岡戦災資料館移転整備事業について

1. 長岡戦災資料館の使命

『私たち長岡市民は、長岡空襲により犠牲になられた方々を悼み、悲惨な戦争の記憶を風化させることなく、平和の尊さを後世に語り継ぎ、広く世界に向けて発信していかなければならない。』 <長岡市恒久平和の日条例より抜粋>

2. 使命の具現化に向けて

～この地の意義を語り継ぐ～

明治天皇巡幸の際、行在所となった地でもあり、この巡幸が北越戊辰戦争からの復興のきっかけとなった。また、長岡空襲の際には爆撃中心点となった地でもある。

二度の戦禍に遭い、そのつど立ち上がる長岡の人びとの精神の原点であるこの地を、平和な未来を築くプロローグの地として大切にしていく。

～まちの記憶の継承～

互尊文庫は空襲により全焼したが、市民の精神と文化の復興のためにと、終戦後わずか二週間で開館した。明治公園に新築移転し、戦後の復興の記憶をとどめつつ、長岡の知の拠点、人びとの心のより処として親しまれてきた。その精神・想いを引き継ぐ旧互尊文庫は、長岡市の公共施設として最も古いものの一つであり、戦災からの復興を成し遂げた長岡の人びとのアイデンティティの象徴として継承する。

世界に平和を発信

長岡のまちの 力強い精神性を象徴する場



※ 2020年 DOCOMOMO Japan
「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選定。
高い文化的価値と歴史的意義を評価されたもので、選定通知には、「長岡市互尊文庫および周辺環境の保全維持に配慮してほしい」と記されている。

慰霊



遺影の常設展示と追体験

犠牲となったかたがたの遺影を常設展示することで命の尊さを実感し、静かに祈る場とする。また、体験型防空壕や空襲の惨禍を伝える被災資料の充実を図ることで、空襲の悲惨さを実感し、自分事として捉える空間を整備する。

復興



復興のあゆみをたどる

廢墟から不死鳥のごとく立ち上がったまちのようすと、長岡人の精神を紹介。空襲の一年後に始まった戦災復興の大事業や長岡復興祭、その後の大花火大会や新潟県産業博覧会「長岡博」の資料などを展示する。

平和

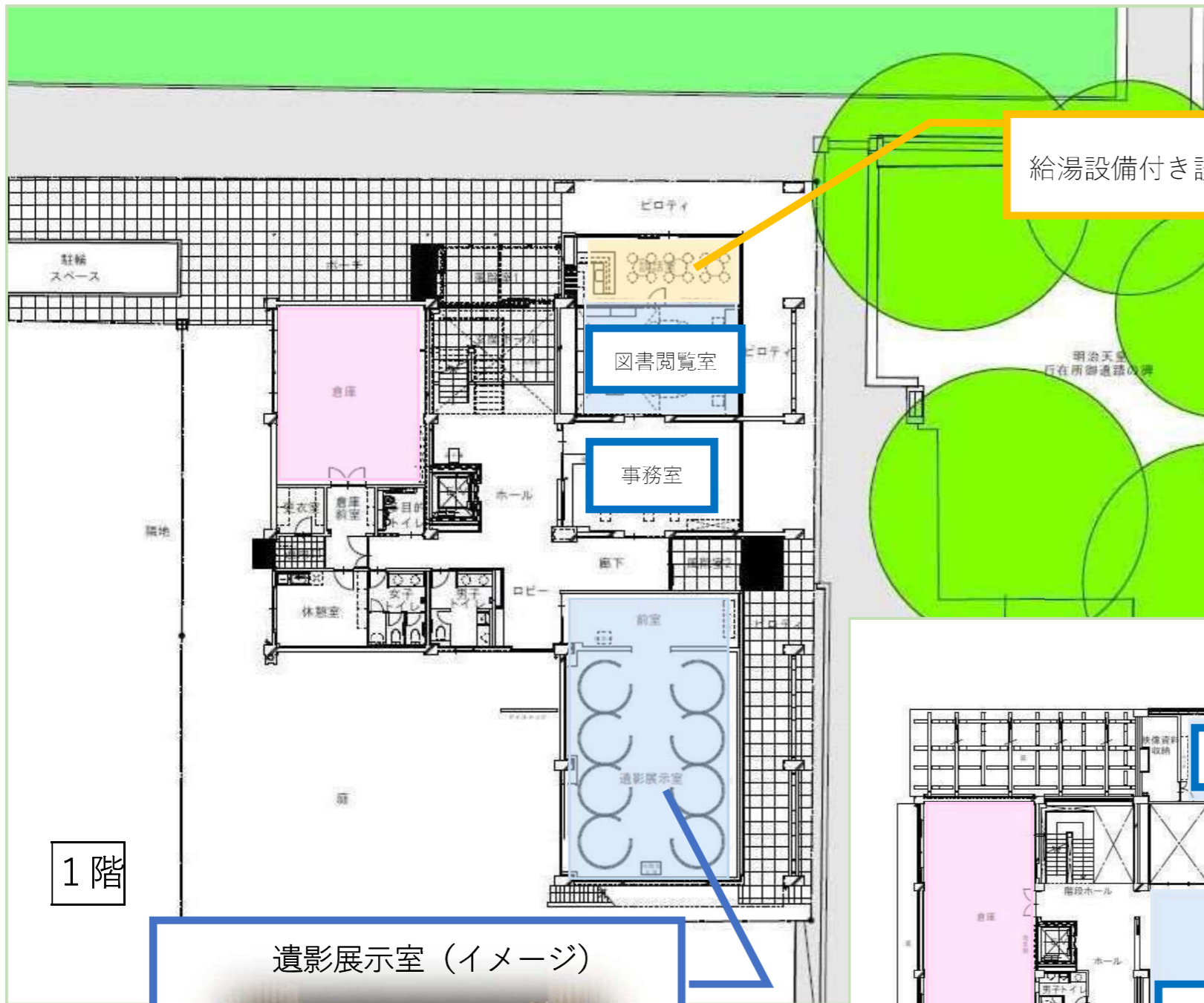


長岡市民共有の想いを世界へ

これまでに寄せられた6千点をを超える資料を最大限活用、さらに市郊外や合併前の旧市町村における避難者の受け入れや物資の支援など、長岡市全体での戦争体験を収集し、小中学校の平和学習に生かす。また、姉妹都市ホノルルとの交流など平和を希求する活動に関する資料の展示や、長岡花火の由来を、しっかりと説明し、世界に向けて平和への想いを発信する。

3. 施設概要

| 項目 | 現在 | 移転後 | |
|------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 施設・面積等 | 賃借施設 ・民間ビル 1・3・4階 434.02㎡ ・駐車場なし | 施設面積 1,300㎡ ※ほか、旧互尊文庫の北側（約300㎡）は防災備蓄倉庫として活用予定 ・大型バス2台分の広場を明治公園の一角に設置 | |
| 諸室概要 | 1階 資料展示室 3階 企画展示兼平和学習室、収蔵庫 4階 収蔵庫 | 1階 事務室、遺影展示室【新設】、図書閲覧室【新設】 給湯設備付きの談話室【新設】 2階 資料展示室【拡充】、映像資料視聴室【新設】 3階 平和学習室兼企画展示室【拡充】、収蔵庫 4階 機械室 ※その他、エレベーターや洋式・多目的トイレを新設し、来館者の利便性を高める。 | 各階からは、明治公園を見ることができ、学びと慰霊と平和を実感できるよう、一体的な整備をし、相乗効果を高めます。 |
| 資料展示数 | | | |
| 所蔵資料 (4,125点) | 約240点 | 常設展示を拡充し、復興や平和を学ぶブースを拡大 | |
| 空襲体験画 (126点) | 約40点 | 常設展示（入替あり） | |
| 遺影(367点) | 企画展の時のみ | 常設展示 | |
| 関連図書 (1,605冊) | 閲覧室なし | 図書閲覧室で約1,200冊を閲覧可能とする。 | |



1階



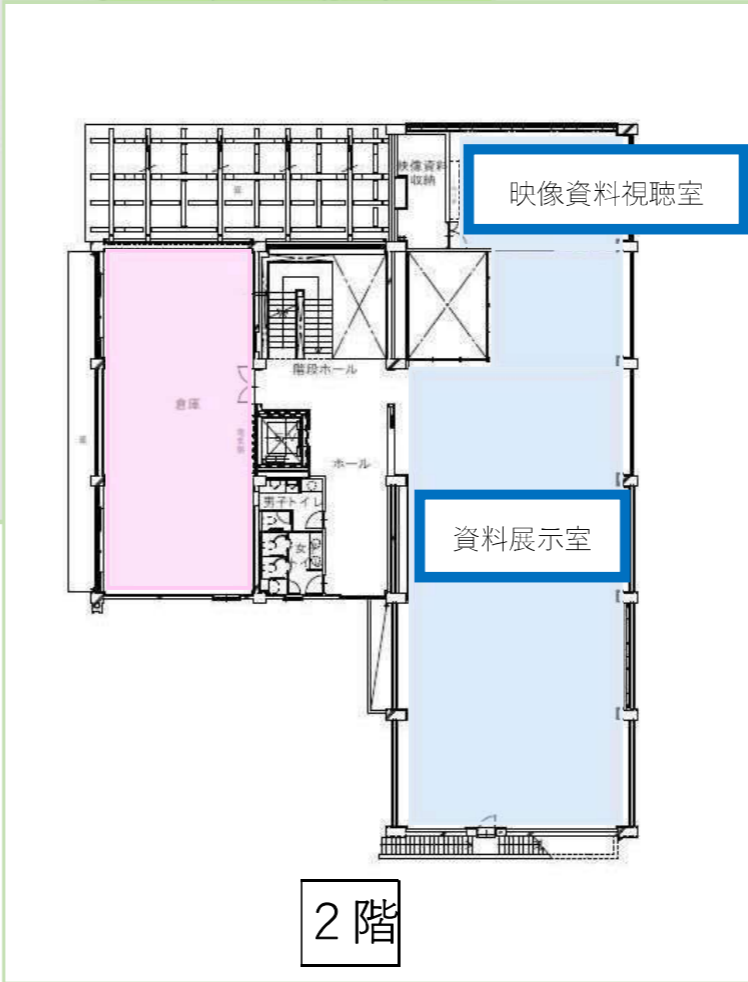
遺影展示室 (イメージ)

給湯設備付き談話室

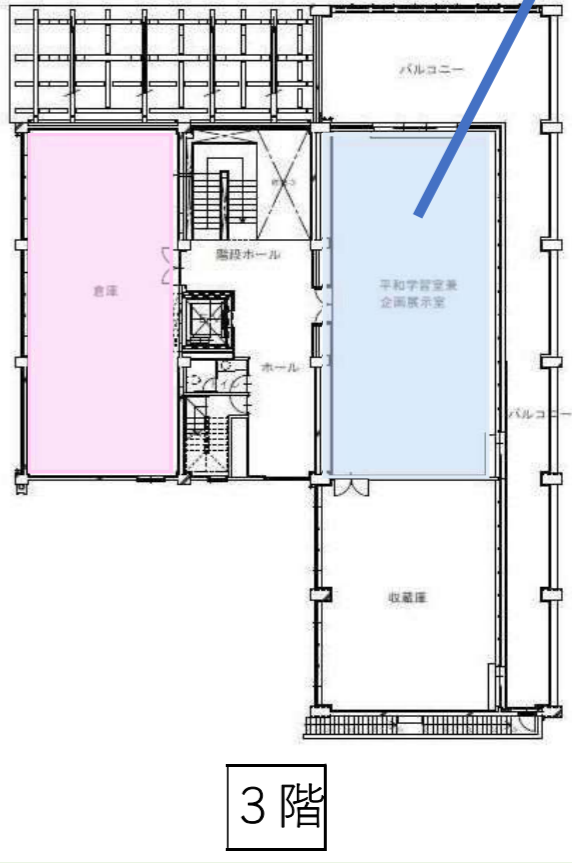
- …戦災資料館展示スペース
- …防災備蓄倉庫
- …公園利用者共用部分



平和学習室兼企画展示室



2階



3階

戦災資料館 平面図

※4階は、機械室

4. 管理運営に関する考え方

市民協働により
育てる施設

平成15年の開館以来、市民とともに考え、育ててきたプロセスを大切に、新たな資料館においても、引き続き、資料館運営ボランティアや企画運営検討委員会委員とともに、市民協働の施設として成長させていく。

市内全域の空襲の
記憶を伝承する施設

合併地域の長岡空襲に関わるエピソードの収集にも力を入れ、空襲の被害のなかった地域の人たちも長岡空襲を自分事として捉えることができるような展示の工夫を行っていく。

周辺施設と
連携する施設

周辺の平和の森公園や歴史関連施設と連携し、まちなかの回遊性を高め、市内外から多くの人に訪れてもらう施設



明治公園再整備イメージ図

コンセプト

- ◇戦災資料館と一体的な整備
- ◇まちなかの市民憩いの空間
- ◇明治天皇行在所の歴史をつなぐ

〈広場計画〉

- ・戦災資料館との連続性を持ったフラットな芝生広場「平和の広場」
- ・園路は黒系アスファルト舗装で厳かな雰囲気演出
- ・園路の縁石部に「1488」を小舗石、白砂利で配置
- ・爆心地の碑周りは石舗装
- ・多目的な利用を見込み、コンクリート舗装の広場を設置

〈植栽計画〉

- ・まちなかの貴重なみどり空間を創出
- ・ヒマラヤスギなどの既存巨木は伐採
- ・白い花（ハクモクレン、ツツジ、白菊など）の植栽で清らかな雰囲気
- ・マンション側（東）には目隠しとして中低木を配置
- ・復興祈願のシダレザクラは移植
- ・明治天皇行在所周りは枝落し等をしつつ、現況の雰囲気を活かす

〈その他〉

- ・遊具エリアはインクルーシブ遊具を設置し、園路と樹木で領域区分
- ・資料館の西側入り口付近は樹木伐採し、駐車場を設置



明治天皇行在所御遺蹟の碑



芝生広場イメージ



爆撃中心点広場イメージ